

平成28年度土木学会選奨土木遺産認定

磐越西線鉄道施設群

駅舎台(新津駅)・早出川橋梁・深戸橋梁・平瀬トンネル・徳沢橋梁・置沢橋梁・長谷川橋梁・釜の崎橋梁・一ノ戸橋梁・霞徳橋梁・湯川橋梁・駅舎台(会津若松駅)・旧磐島駅木屋・駅舎台(郡山駅)

授賞式・認定記念フォーラム

日時:平成28年 **12月10日(土)**

13:00~16:30

場所:**福島県立博物館** 講堂

参加費:無料

記念講演 「磐越西線鉄道施設群の特徴と魅力」 道総合技術研究所 小野田 滋
パネル討論会 「**磐越西線**としての磐越西線、**地域資源**としての磐越西線」

主催:公益社団法人土木学会東北支部 後援:福島県立博物館

認定理由:明治・大正期の多様な橋梁群、隧道、駅舎、駅舎台等を有し、さらに重要国史跡の磐越西線などラフラインとして東北と関東を繋いだ貴重な土木遺産

JR磐越西線の鉄道施設群は、明治から大正初期の時代に急峻な山々や渓谷をトンネルや橋梁でつなぎ、日本初の架設工法の集大成、米国製のトラス構造・ピン結合など特徴ある貴重な土木遺産です。

一方、2011年7月11日の東日本大震災後の3月25日から、臨時石川町駅が、浜の根岸から新潟を経由し磐越西線で郡山まで運行。被災地に暖かさや安心を届けてくれました。震災1年という節目を過ぎ、ラフラインの機能を再認識し、磐越西線の果たした役割を東北地域の住民と全国の石川町駅の輸送にかかわった方々と情報や意見交換を行ない、また、地域資源としての楽しみ方も

